

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 13人

② 算数 13人

5 留意事項

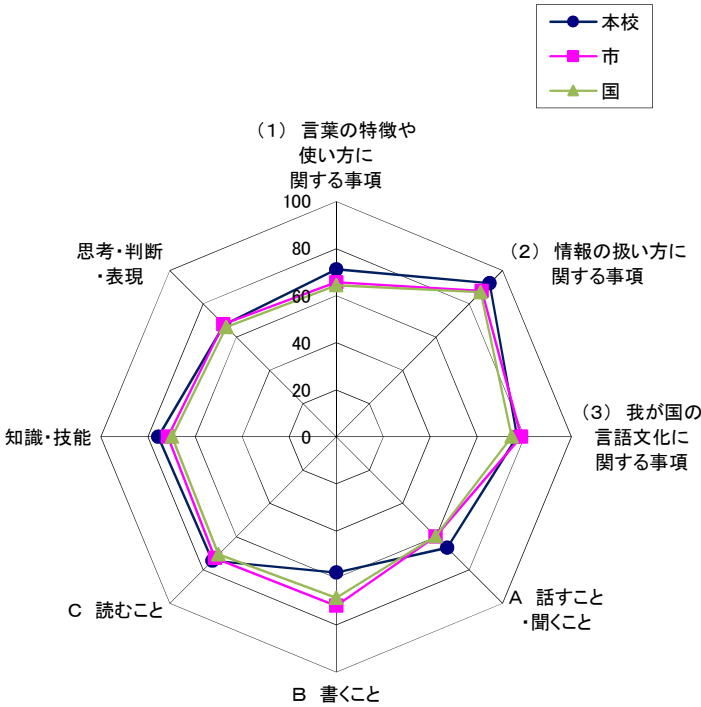
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.2	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	92.3	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	66.7	59.9	59.8
	B 書くこと	57.7	71.8	68.4
	C 読むこと	74.4	72.9	70.7
観点	知識・技能	75.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	67.3	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

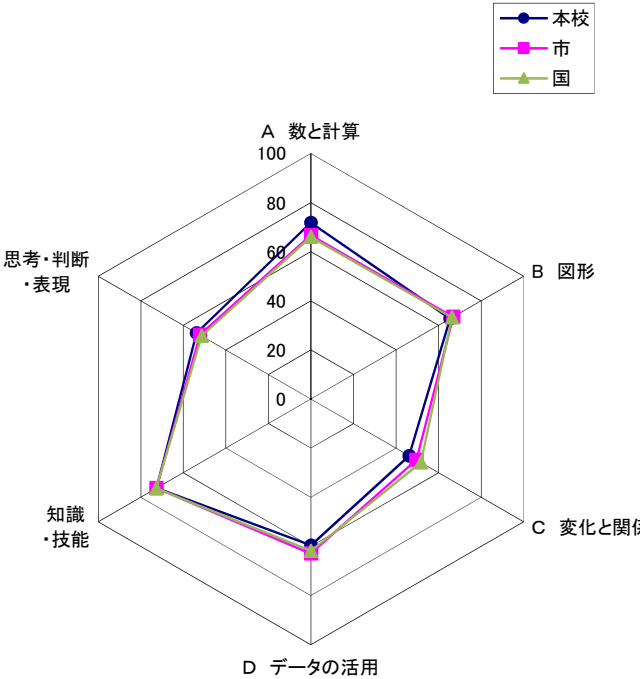
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は71%で、全国の平均より高い。 ○習得済みの漢字の書き取りの設問の正答率は、60ポイント以上だった。特に「きょうぎ」の漢字の書き直しの正答率は、全国より30ポイント以上高かった。 ●話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる設問では、全国平均より6.7ポイント下回った。	・漢字の読み書きは、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。 ・文章の種類とその特徴を見極めるために、校内及び家庭での読書活動を充実させ、多くの物語、そして文章に触れる機会を設けることでそれぞれの種類や特徴を捉えられるよう指導していく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は92%で、全国平均より高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解使うことができるかどうかをみる設問では、全国平均より5.4ポイント上回った。	・今後も様々な種類の資料に触れ、説明の仕方や書き表し方の違いを確認しながら、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を表現する言葉を取得し、書き表せるように指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は77%で、全国平均より高い。 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる設問では、全国平均2.3ポイントとやや上回った。	・日常的に行っている朝の学習の読書指導や各授業の中で取り入れられている文章をよく読んで理解する指導を引き続き行うとともに、図書館の利用を推進して、より言語文化に親しむ機会を増やしていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は67%で、全国平均より高い。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問では、全国平均を16ポイント上回った。 ●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、全国平均より8ポイント下回った。	・日々の授業や学級活動の中で、話し合い活動の充実を図り、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることを意識させて話すことができるように引き続き支援していく。また、国語の授業では、話し合いの目的や意図に応じて、資料を用いたり、構成を意識したりするように引き続き指導していく。
B 書くこと	平均正答率は57%で、全国平均より低い。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問では、全国平均を18ポイント下回った。	・様々な種類の図表やグラフなどに触れ、どのような言葉を使うと資料と考えのつながりを説明できるのか、また、より説得力をもたせられたのかなど、自分の考えが伝わる書き表し方に重点を置いて指導していく。
C 読むこと	平均正答率は74%で、全国平均より高い。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうか設問の正答率は84%以上で、全国平均を17ポイント上回った。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる設問では、全国平均を3.4ポイント下回った。	・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにするために、物語文を読んで、心に残ったこととその理由をまとめて書く指導を今後の授業の中で取り入れて、自分の考えを明確にししながら、文章の内容を的確に捉えられるように指導していく。

宇都宮市立平石中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.8	66.7	66.0
	B 図形	65.4	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	46.2	49.6	51.7
	D データの活用	59.6	62.9	61.8
観点	知識・技能	72.6	72.6	72.8
	思考・判断・表現	53.8	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は72%で、全国平均を上回っている。 ○ $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く問題の正答率が92.3%と全国平均を大きく上回った。 ● 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選ぶ問題の正答率が38.5%と全国平均を下回った。	・問題文が長かったり、示された資料が多かったりすると式に表せないことがうかがえる。類題に取り組ませ、表から必要な数値だけを読み取り、式に表せるようにする。
B 図形	平均正答率は65%で、全国平均を下回っている。 ○ 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く問題の正答率が全国平均を上回った。 ● 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題の正答率が全国平均を下回った。	・体積を求める際、図形のどこの長さに着目すればよいのか理解できていないことがうかがえる。公式を用いるうえで、不要な辺の長さを示した図を使うなど、図形と公式を関連付ける練習を繰り返し行うようにする。
C 変化と関係	平均正答率は46%で、全国平均を下回っている。 ○ 3分間で180m歩くことを基に1800mを歩くのにかかる時間を書く問題の正答率が全国平均を上回った。 ● 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを求める問題の正答率が全国平均を下回った。	・速さの意味についての理解が不十分であることがうかがえる。速さ・時間・距離の関係について再度確認し、それぞれを求める公式について全員が理解し、活用できるようにする。
D データの活用	平均正答率は60%で、全国平均を下回っている。 ○ 円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く問題の正答率が全国平均を下回った。 ● 折れ線グラフから、必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題の正答率が全国平均を下回った。	・1つのグラフから数量は読み取ることができているので、今後は読み取るだけではなく、問題にとってどのようなデータが必要になるのかを考える場を設定する。

宇都宮市立平石中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う。」と回答した児童の割合は76.9%で、全国平均を大きく上回っている。今後も、学級活動などでの友達のよさを認め合えるような機会を増やしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と回答した児童の割合は100%であった。今後も、道徳や日々の児童指導の中でいじめは絶対許されない行為であるということを繰り返し指導していく。

○「人の役に立つ人間になりたいと思っている。」と全ての児童が回答した。学年目標の「互いに思いやり協力し合う子」を意識し指導してきた成果だと考えられる。今後も、自分のことだけではなく友達を思いやりながら行動できるよう声掛けをし、見守っていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思う。」と回答した児童の割合は92.3%で全国平均を大きく上回っている。係や当番活動などにおいて、児童の頑張りを見落とさないよう心掛け、適時に頑張りを認めることで児童の自己肯定感を高めていきたい。

●「友達関係に満足している。」と回答した児童の割合が61.5%と全国平均を下回った。日常の観察や教育相談等で児童の人間関係を把握し、問題を未然に防ぐようにしていく。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。」「学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習に生かすことができる。」と回答する児童が全国平均を大きく上回った。今後も話し合う活動を意図的に取り入れたり、児童のつまづきを把握して指導を改善したりすることを続けていきたい。

宇都宮市立平石中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「読み・書き」の基礎基本をしっかり押さえ、語彙力を高める。 ・文や資料をていねいに読み、深く分析することを通して、自分の考えを明確にし、文章化することについて指導する。	・漢字の読み書きや語彙を増やす学習を繰り返し定着を図る。 ・視写を行い、文章としてのまとまりを意識して書き写すことにより、文章の書き方や文章の意味を考え理解する力を養う。 ・事実と自分の考え・資料と見聞きしたことを意図的に分けて文章を書くことで、自分の考えを明確にする力を育てる。	・言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、全国平均を上回った。 ・読むことの平均正答率は全国平均を上回った。 ・書くことの平均正答率は全国平均を下回った。
・計算の力や算数のきまりなどの基礎基本をしっかり押さえ、算数的な見方考え方を養う。 ・自分の考えを式、図、言葉で説明する活動を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図る。	・計算や文章を読んで式に表す学習を繰り返し、基礎基本の定着を図る。 ・自分の考えを算数的な見方考え方を使い、図や表などを使って書き表す学習活動を積極的に行う。 ・実感を伴った理解につながるよう、めあての提示や学習活動の工夫に取り組む。	・知識・技能の平均正答率は、全国平均と同程度だった。 ・記述式の平均正答率は全国平均を上回ったが、問題により下回るものもあった。 ・「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。」の肯定的回答は全国平均を大きく上回った。